

## 小田原市下水道運営審議会 会議録

会議名	令和2年度第2回小田原市下水道運営審議会	
日時	令和3年2月4日（木）から令和3年2月19日（金）	
開催方法	書面会議（新型コロナウイルス感染症拡大防止策のため）	
次第	1 報告事項 （1）小田原市下水道事業経営戦略の改定について	
資料	資料1 小田原市下水道事業経営戦略の改定について 資料2 小田原市下水道事業経営戦略の改定について（説明原稿） 参考資料1 小田原市下水道事業経営戦略の改定に係る市民意見の募集結果について 別紙 小田原市下水道事業経営戦略（改定案）	
出席者	審議会	茂庭会長、関野副会長、渡辺委員、杉山委員、原委員、川瀬委員、丸山委員、畠山委員、早瀬委員、望月委員、志村委員、鈴木委員
	事務局（市）	下水道部長、下水道部副部長、下水道総務課長、下水道整備課長、下水道維持担当課長、下水道総務課副課長、下水道整備課副課長、総務係長、工務係長、下水道維持係長3名、総務係主任
傍聴者	0人	
質疑応答及び意見	下記のとおり	

報告事項（１）小田原市下水道事業経営戦略の改定について

**委員** 下水道未普及地域の整備とあるが、未普及地域は小田原市全体の何%位あるか。

**事務局** 小田原市公共下水道全体計画に位置付けた約 2,931 haのうち、令和元年度末時点で約 2,527 haが整備済みとなっています。  
未普及地域は残りの約 404 haで、約 13.8%となっています。

**委員** 効率化に繋がる民間委託で事業内容を理解し、参加を希望される事業者は現在どのくらいあるか。

**事務局** 現在は事業の検討段階であることから、参加希望者については把握できておりません。

**委員** 市民生活等の安心・安全の観点からも災害対策への一層の強化に賛成する。暮らしを支えるために投資し、災害への備えを万全にお願いしたい。

**委員** 地震・水害等自然災害が続出し、いつその渦中に巻き込まれるかもしれないとの不安の中で暮らしている。今回の投資・財政計画では、大きな数値の変化を目にした。「暮らしを支えるための投資を早期かつ重点的に行う」との課題に対し、地震対策事業・長寿命化事業（共に管渠）に前回比で約 5 倍規模を投資するという。市民の不安を受け止めた時宜を得た計画と賛成する。

今後の下水道事業運営への要望として、流域下水道化に伴い、用地の節約、処理施設集約により維持管理費の節約が可能になったと思われる。それらを積極的に経営基盤強化に繋げていっていただきたい。同じく、流域下水道化により一市だけでは取り組むことが難しい下水汚泥、下水熱等をエネルギーに変換する取組を官民連携で進めていただきたい。

委員 委託する業者の選定にあたっては、一般の人が分からない工事や作業のため、特に誠実で能力のあるところと精査していただきたく、また、市も丸投げして、内容は任せるのではなく、きちんと監視できるシステムにしていただきたい。

委員 「地方公営企業法」を適用させた「小田原市下水道事業経営戦略」は、将来を見据えた優れた経営戦略であると評価する。今回の改定案において投資・財政計画は安定的な収支を見通すための指針となる。また、経営比較分析が可能となって、小田原市の経営の健全性・効率性の基準を示し、さらに他市町村との客観的な比較によって客観的な経営状況を市民に開示することになる。今後とも、将来を見通した客観的な運営と市民に公開された下水道事業の運営を目指すことを期待する。

委員 資料2の2頁、3段落目に「投資額を増額」、4段落目に「引き続き企業債の活用や国庫補助金の確保等に努める」とあり、投資・財政計画の「支払利息」と「企業債残高」を見ると、逡減しているが、「国庫補助金」は現状の1割増しとなっている。

設備更新・投資を増額するとあるが、財源は国庫補助金を考えているのか。

事務局 投資につきましては、御指摘のとおり国庫補助金や企業債、さらには損益勘定留保資金等を財源に行ってまいります。

なお、投資・財政計画における企業債につきましては、制度上認められる上限額での借入れを計画しておりますが、過去、設備投資が集中した時期に多く借入れた企業債に係る償還が順調に進んでいるため、企業債残高及び支払利息は減少傾向にあります。

委員 企業債については、償還額が新規発行額を上回っているという理解でよろしいか。

**事務局**

お見込みのとおり、投資・財政計画における企業債につきましては、新たに借入れする企業債の発行額に対し、支払う償還額の方が上回っております。